

平成29年度 (公社)日本ホッケー協会中学校部会 第2回常任委員会議事録



日時:平成30年2月24日(土) 13時00分～17時00分

於 :埼玉県飯能市立美杉台中学校 (埼玉県飯能市美杉台5丁目3)

参加者 (敬称略)

中学校部会副会長:白石 睦 (島根県:仁多中学校長)

常任委員: 苜宿文子 (東北) 前田弘美 (北信越)
高橋可奈 (関東:代理) 大川綾織 (東海:代理)
柏本宏和 (近畿:代理) 道端良之 (中国)
岩尾幸美 (九州)

U16 海外遠征事務局:吉原 荘二

中学校部会役員:馬場治男 (事務局長兼競技部長)
平尾 豊 (審判部長)
北島沙紀 (会計)
久保克敏 (事務局)

常任委員会

- ・ 構成員: 15 名
- ・ 出席者: 13 名 (過半数)

規約 第6章 第19条に
則り本会は成立

日本ホッケー協会:瀧上正志

H30 年度全中大会 (島根県) 事務局:児島史朗、元山貴光

H32 年度全中大会 (静岡県) 工藤玲子

文責:久保克敏 (事務局)

1 開会

2 あいさつ

会に先立ち、今回、体調不良のため欠席されました中学校部会長 (大分県このえ緑陽中学校長) にご挨拶を、九州ブロック常任委員の岩尾先生に代読いただいた。

今年8月に行われた全日本中学生ホッケー選手権大会について、素晴らしい大会になったことに対するお礼を述べられた。また、都道府県対抗11人制大会及びU16 オーストラリア遠征について関係者の労をねぎらっていただいた。

最後に、この一年間ホッケーに携わって多くの方々に出会い、お世話になったことのお礼をいただいた。

次に日本ホッケー協会 瀧上正志様よりご挨拶をいただいた。

3 協議事項

(1) U-16 オーストラリア遠征について-報告-

資料1-1、1-2

女子監督 (道端良之)、男子監督 (吉原荘二)、海外遠征事務局 (吉原荘二) より資料に基づいての報告があった。

ここ数年の海外遠征の成果として、環境の変化に順応し、個々の力を海外でも発揮できるようになってきた。これは、遠征先でのサポート体制 (安全面、食事面など) が充実しており、安心してホッケーに取り組むことのできる環境が大きいと考える。

一方、技術面では6人制から11人制へと変化する中で、ストロークやPCに課題が見られる。6人制では強いヒットを使わなくても対応できるため、11人制の広いコートで戦うために不可欠なヒットの技術に欠けることが大きな課題となった。このことを各ブロックに持ち帰り、指導者が将来を見据えて (11人制で通用する技術) 指導をしていく必要がある。

江副記念財団助成事業補助金について

3月4日(日)に、吉原海外遠征事務局と馬場事務局長で選考会に参加をする予定である。

また、日本ホッケー協会は、今後のカテゴリーの名称を統一するため、現在の中学校部会が行っている海外遠征の名称を「U15」として名称変更をしていく。

- カテゴリーとして サムライジャパン (男子) さくらジャパン (女子)
- U21
- U18
- U16
- U15 (中学校選抜として編成をしたチーム) とする。

(2) 第19回都道府県対抗11人制ホッケー大会について—事務局：久保

○大会の反省等

- ・特に大きなトラブルもなく大会は円滑に運営されていた。大会を連続をして開催していただいている福井県(越前町)に一同感謝をした。

11人制大会実行委員会より

- ・参加料の入金若干遅れるチームがあった。期限内の納入をお願いしたい。
- ・スターティングリストの提出方法については、次年度もフィールドホッケーネットを採用する予定である。了承いただきたい。
- ・宿泊・弁当については、必ず宿泊弁当の要項に記されているように手続きを行ってほしい。
- ・今年度「スカイA」(CS放送)の番組収録があった。次年度についても収録が入るかもしれないので、了解していただきたい。

○今後について

全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会は、2019年(平成31年)まで福井県での開催が決定しているが、それ以降の開催場所については未定である。しかし、中学校部会としては、福井県での開催を希望しており、今後福井県ホッケー協会及び越前町の方に中学校部会事務局で折衝をしていきたい。

(3) 平成29年度「事業報告」及び「決算(中間まとめ)」 (事務局)

①平成29年「事業報告」～中間まとめ～

資料 2-1・2-2

今年度の事業報告を別紙の通り報告する。

②平成29年「決算報告」～中間まとめ～

今年度の決算報告を別紙の通り報告することを確認した。

(4) 平成30年度中学校部会役員(案) (事務局)

資料 3

- ・会長…次年度全中大会開催地(島根県仁多中学校)より白石睦校長先生にお願いする。
- ・副会長…次年度全中大会開催地(滋賀県)より校長先生を選出いただく。
- ・常任委員、専門委員の交代について確認→人事異動も関係するので決まり次第事務局(久保)まで旧常任委員(H29年度)が報告をする。

(5) 平成30年度「事業計画(案)」及び「運営費予算(案)」 (事務局)

①平成30年「事業計画(案)」について

資料 4-1・4-2

来年度の事業計画を別紙の通り報告する。

各ブロックで合同チームによる全国大会参加を希望しているチームがあれば、5月下旬

(日程、場所は未定)に、第1回目の常任委員会までに、事務局まで報告をすること。
 なお、その際は、当部会が認める合同チームの条件を満たしていることが条件となるので、各ブロックで周知徹底をすること。

②平成30年「運営費予算(案)」について
 来年度の収支予算書を別紙の通り報告する。

(6) 全国大会内規事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(事務局)

資料 5

内規事項3(全国大会開催決定について)について

- ・H30年度以降の全中大会開催地について
 H30：中国ブロック・・・島根県で決定。
 H31：近畿ブロック・・・滋賀県で決定。事務局の方で滋賀県の方に挨拶へ

- H32：東海ブロック・・・静岡県が立候補
 静岡県ホッケー協会(工藤様)より、開催にあたり諸条件の提案がされた。
- H33：関東ブロック・・・埼玉県が立候補、東京開催も可能性有り
- H34：東北ブロック・・・宮城県が立候補

・その他 「全国大会のシード権について」「決勝トーナメントの組み合わせ抽選について」確認を行った。
 「運動部活動指導員」の取り扱いについては、今後の日本中体連や各ブロックの中体連などの動向を見ながら検討していく。

・各ブロック参加枠数の検討

《方法》ア) JHAに登録し、ブロック予選もしくは各都道府県予選等に参加した実績があり、「個人登録料」を納入したチームにより比例配分し、各ブロックの参加チーム数を決定。

- イ) 開催地の島根県に「開催地枠(1)」を設ける。
- ウ) 北海道は不参加、四国は参加
- エ) 全国大会における各県の参加上限を2チームとする。(※開催地枠は除く)
- オ) 全中ブロック枠を最大「4」にする。
- カ) 昨年度優勝ブロックに出場枠を「1」増やす。

平成30年度 島根全中ブロック枠

	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州	開催枠	合計
男子	0	3	5	3	2	4	3	1	2	1	24
女子	0	3	4	5	2	4	3	1	1	1	24

※男子関東ブロック、女子北信越ブロックに昨年度優勝枠「1」が含まれている。

- (7) 第48回全日本ホッケー選手権大会・・・(大会実行委員会：島根県ホッケー協会)
平成30年度の大会の概要について大会実行委員会事務担当者の元山様、横田中学校児島史朗教頭先生に出席いただき「実施要項」「競技運営規程」「会場関係」「宿泊・弁当要項」など現在の状況報告があった。
中学校部会としては下記の点は留意点として確認をした。

***全中大会の宿泊についての留意事項**

大会期間中については、必ず大会事務局を通して宿泊申し込みをする。

弁当については、以前より希望制としている。

配宿は近畿ブロック大会の結果が出次第、一斉に行う。

*全国委員会、監督会議には必ず参加すること(重要協議事項あり)。厳守

*男女の監督を兼ねることはできない(監督は教員であること)。

*プログラム作成の関係上、東北・近畿ブロック全チームには事前にエントリーフォーム等のデータを送っていただくように要請。

*大会前日には、公式練習場の開放をお願いをする。

- (8) 競技部・審判部より・・・・・・・・・・ **別紙資料**

平成30年2月11、12日行われた、日本ホッケー協会全国ルール統一研修会に出席いただいた日本ホッケー協会競技副部長：馬場先生(中学校部会競技部長)、日本ホッケー協会競技部長：平尾先生(中学校部会審判部長)より報告をいただいた。
ポイントは下記の点です。

★登録について

①年度当初に日本ホッケー協会へ登録する際、H30年度からは<チームスタッフ>と<選手>のみの登録となり、チームスタッフの中から、監督、コーチなどを大会時に登録をする。

②選手登録をされている者が、チームスタッフの欄に登録する場合は、チームスタッフにも登録が必要である。

例>社会人チームに選手として登録している者が、全日本中学生都道府県対抗11人制大会でチームの監督をする場合、日本ホッケー協会の「中学11人制大会」の<チームスタッフ>に登録をしておかなければならない。

★平成30年度6人制規則変更点

大きな変更点はない。

★レギュレーションの確認

注：①イエローカードの退場時間について・・・イエローカードの退場時間が2分間となる。

②高校生以上の国内の試合でクォーター制を適用する。

(6人制、都道府県11人制は除く)

★その他

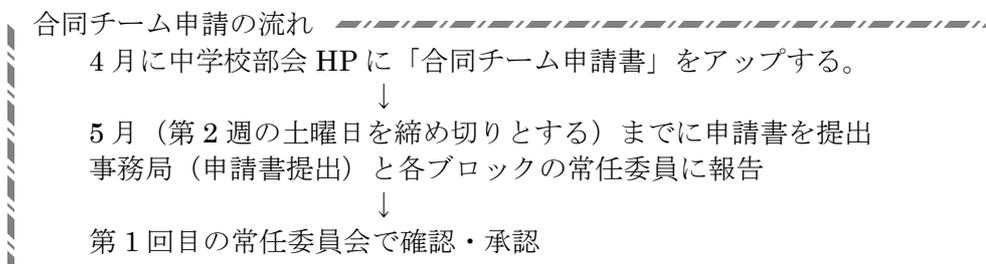
①試合中にボディーチェックがあっても、プレイが続いている場合は笛を吹かないで流す。指導者がそのことを十分に理解をして、指導をしていく。

②GKが横たわったりスライディングをしたりした時に、レガースや胸元の下に潜り込んだボールについて、攻撃側がボールを押し込んだ場合は攻撃側の反則とする。これについては、おおむねチームに浸透をしている。

③スライディングタックルは、たとえボールを正当に奪ったとしても、スライディング行為自体が危険であった場合(危険誘発行為を含む)、カードにより罰せられる。

(9) その他

- ・ 合同チーム編成条件の再確認
 - * 学校長の承認は必要・・・学校管理下による大会実施を守る。
 - * 教員による引率が必ず必要である。
 - * 合同チームとして認められる範囲は・・・活動実績のある3チームまで
 - * レンタルによる合同チームについては、全中大会では認めない。



- ・ 全国大会優秀選手の選考について
現状を踏襲していく方向で考える
- ・ ジュニアユース U15 日本代表チームについて・・・（遠征事務局）
次年度も海外遠征を行う予定である。

連絡事項・その他

- ・ U16 アジアカップについて
開催地：タイ／バンコク
開催期日：4/25～
男女同時開催
参加資格：ほぼ高校生
ルール：ホッケー 5 ルールによる（エントリー 9 名）
↓
中学校部会からのスタッフ協力について
男子 HC（監督）として、高体連より酒井友真先生への協力依頼有り

4 閉 会

会の終わりに、白石睦中学校部会副会長（島根県仁多中学校長）より、当会議で長時間にわたり丁寧な審議がおこなわれたことに対するお礼と、この1年間の役員に対するお礼をいただいた。また次年度は島根での全中開催となり、万全の体制で大会が運営できるように役員へ協力をお願いしたいと述べられて閉会となった。